

「国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 2年 新田祥真

1、プログラム内容

主に中国語の授業と、台湾の文化に関する講義、フィールドトリップ、最終プレゼンの4つが行われた。

中国語の授業は、初日にプレイスメントテストが行われ、4段階のクラス分けが行われ、毎日午前3時間授業が行われた。授業はスピーキングがメインで、先生の質問に対して、習ったフレーズで応答するのが殆どだった。台湾の文化に関する講義は、「伝統芸能、民俗信仰、結婚の風習、生活習慣、自然環境」に関するもので、全て台湾大学の教授によって行われた。フィールドトリップは、週末や平日の午後に、台北市内の寺社や博物館に赴き、英語によるツアーガイドを受けた。夕方や休日などイベントのない時間帯は基本的に自由なので、それぞれ買い物や台北市外まで観光に行く事も多かった。最終プレゼンでは、プログラム最終日に興味のある分野について自由に発表する機会が設けられた。2週目以降は最終プレゼンの準備で忙しくなることが多かった。

2、成果

中国語の未履修者であったが、出発前の1週間の事前学習会のおかげで、クラス振り分けで下から2番目の初級者クラスに入ることができた。とはいうものの、授業のガイダンス自体が中国語で行われた為、リスニングやスピーキングを勉強したことがなかった為、初めの1週間は授業についていくことがやっとならなかつた。2週目以降は、単純なフレーズや単語を覚えることで要領を得て、授業についていくことができるようになった。また、スチューデントアドバイザー(以下SA)に毎晩のように発音の練習や会話練習をして頂き、授業外でもスピーキングの向上に努力した。苦手な発音を何度も練習し、最終プレゼンで自分の興味のある「台湾と中国の交通」について4分間中国語で話し切った時は、達成感を感じた。

中国語以外にも台湾の歴史や文化を学ぶ機会が豊富に設けられており、台湾への理解が深まったと感じた。フィールドワークや講義を通して、ネットでは得られないその人の経験や考えを直接聞くことができ、台湾の独自性を学ぶ貴重な機会になった。

3、海外での経験

3週間という長い期間滞在したため、様々な場面で交流することが多かった。特に、宿題や最終プレゼンの作成を手伝ってもらった台湾大生のSAや受け入れスタッフとは親交を深めることができた。また、他の大学からのプログラム参加者とも意見交換を行うことができた。とりわけ、自分と同じ政治学系の学生が多く、中華圏や東南アジア、日本の政治についてや今後の進路・就職について話ができて、有意義な時間を過ごせた。また、ホテルでは夜間に自主的な中国語学習会を開き、台湾ビールを飲み、取るに足らない話で盛り上がりながら勉強ができたことは、またとない経験になったと思う。

加えて、中国語で他の学生と交流するのはとても新鮮な機会だった。というのも、現在、京都大学と北京大学の学生交流事業に関わっており、活動は全て英語で行なっている為、中国語を用いることはなかったからだ。今回、中国語を学び、実際にコミュニケーションを取ることで視野の広がりを感じた。簡単な単語でさえ

相手に理解された時の感覚は、初めて英語が通じた時の感動のようで、言語学習の面白さを改めて感じた。一方で、中国語は声調や発音が複雑でうまく伝わらないことが多く、上達の難しさを感じた。

4、進路への影響

将来は東南アジアで鉄道開発に携わりたいと考えている為、また大学院で中国やアジアにおける国土政策を学びたいと考えている為、プログラム参加は中国語を学び始める良い機会になったと思う。今回、コミュニケーションにおける中国語の重要性を再認識し、また、自分の言葉が相手に通じた感動から、より一層中国語を身に付けたいと思うようになった。以後継続して中国語学習を行い、今年度中に HSK 4 級の取得を目指したいと考えている。